



ぶらり らいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 135

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

問) ^{きんし}金鷄勲章について知りたい。できれば閲覧室の図書で調べたい。

答) 「金鷄勲章」をキーワードとして検索してみます。

図書 → → → 132件



資料件数が多いので閲覧室の図書のみ絞ってみます。

を押し 開架閉架 の部分で、閉架のチェックをはずして開架 のみのチェックにします。

図書 → → → 9件

『陸軍師団総覧』(396.21/Ki43)

『日本軍隊用語集』(392.1/Te43/1)

『「戦前・戦中」用語ものしり物語』(210.75/Ki68)

『小学生新聞に見る戦時下の子どもたち第1巻』(916/A38/1)

『新聞集成昭和史の証言 第15巻』(210.7/Sh59/15)

(出入り口付近、右端の検索台ではを押すと表示された9件を一覧として印刷することができますのでご活用ください。)

※金鷄勲章は戦場で武功をたてた陸海軍将兵・軍属に国が与えたもので、明治23年2月11日に制定。功一級から功七級の七区分で当初は年金が支給された。日清戦争から太平洋戦争までの受章者は93万人以上とみられる。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。

検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。

操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。



スカッとさわやか・・・？

だんだん暑くなってきました。こんなとき飲みたいのはさわやかな炭酸飲料ですね。
ところで、ラムネとサイダーって、何が違うのでしょうか？

・ラムネ

日本で最初の清涼飲料水として発売されたのは、慶應元年（1865年）、長崎商人が製造法を学び、“レモン水”として発売したのが始まりといわれています。レモン水に風味をつけてつくられたようです。この呼び名はその後普及せず、英語名のレモネード（Lemonade）の語尾が消え、なまってラムネになったと言われていました。今の玉ビンが普及したのは明治21年ごろからで、東京本所の洋水社によって日本人自身によるラムネの商品化がなされ、東京全市に普及、その後全国に広まっていきました。その後も、ラムネは主に中小の業者が中心となって生産を続けます。

・サイダー

サイダーは英語でCiderといい、これはリンゴ酒（シードル）を意味しています。なぜ酒ではない炭酸飲料をサイダーというのか、それは日本で初めていわゆるサイダーが発売されたとき、シャンペンサイダーと名づけられたからです。あの祝い酒であるシャンペンの風味と、リンゴ酒（サイダー）の風味をミックスしたものであるという意味で、後に略してサイダーとなりました。更に、びんの形から、玉ビンを用いたものはラムネ、王冠栓のものはサイダーと言われるようになりました。本格的に商品化されたのは明治18年の一ツ矢（後の三ツ矢）サイダーです。

明治から大正にかけてはラムネの全盛期だったようですが、昭和に入ると強力な資本を持つ大手ビール会社3社がそれぞれ三ツ矢サイダー（朝日麦酒）、リボンシトロン（日本ビール：現在のサッポロビールの前身）、キリンレモン（麒麟）という3大銘柄で、中小企業で販売能力のない生産者のラムネを圧倒してゆきました。

しかし昭和36年、食品類の貿易自由化が完全実施されるようになり、とうとうあの“コカコーラ”が国内で流行し、やがてサイダーの地位を奪ってゆくこととなります。

[参考文献]

『日本清涼飲料史』（588/To46 閉架書庫）

『近畿コカ・コーラ10年史』（588/Ki44 閉架書庫）

『びんの話』（588/Y31 閉架書庫）

—図書室から—

今年は冷房も控えめにしなくてはならないようです。炭酸飲料でも飲んで、少しでも体に爽快感を与えませんか。（図書室は飲食禁止ですので、あしからず。）

ぶらりらいぶらりい～図書室にはこんな本があります～ NO. 135

2011年6月21日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1